

## 7. 障害者歯科診療等に関する今後の方針

「できれば行いたくない」27.4%、「要望があれば行いたい」67.3%、「積極的に行いたい」5.3%であった。

今後の方針として、ほぼ3人に1人の割合で障害者歯科診療を視野に入れていることが推測される。

## 8. 在宅の障害者訪問歯科診療等の受容

「断る」は23.1%で、「障害の程度や治療の内容によって引き受ける」62.5%、「とりあえず全て引き受ける」14.4%であった。

在宅の障害者歯科診療については、ほぼ5人に4人の割合で引き受ける状況にあることが推測される。

## 9. 施設の障害者訪問歯科診療等の受容

「断る」は22.9%で、「障害の程度や治療の内容によって引き受ける」61.0%、「とりあえず全て引き受ける」16.1%であった。

施設についても、在宅同様でほぼ5人に4人の割合で引き受ける状況にあることが推測される。

## 10. 心身障害者への対応

「断る」は16.3%で、「抑制器具や介助なしで治療が出来る場合のみ」48.3%、「1~2回の抑制器具や介助が必要だが、その後は通常の治療が出来る場合のみ」23.6%、「毎回抑制器具や介助が必要な場合でも」9.9%、「静脈鎮静法、笑気鎮静法での治療が必要な場合でも」2.0%、「全身麻酔科での治療が必要でも」0.0%であった。

心身障害者の歯科診療についても、拒否的な者は少なく、多くが協力的である。しかしながら、静脈鎮静法、笑気鎮静法、全身麻酔を用いた診療はほとんどの者が考えていないことが分かる。

## 11. 障害者歯科診療等に協力する歯科医、相談を受ける歯科医師を定め、登録する制度に

## 関する必要性、対応、他

「どちらの制度も必要ない」8.2%、「相談を受ける歯科医の制度のみ必要」6.3%、「歯科診療に協力する歯科医の制度のみ必要」12.5%、「両制度とも必要」50.0%、「わからない」23.1%であった。

「どちらにもならない」16.2%、「相談を受ける歯科医の制度のみになってもよい」19.6%、「歯科診療に協力する歯科医の制度のみになってもよい」8.3%、「両制度の歯科医になってもよい」24.5%、「わからない」31.4%であった。

協力する歯科医になった場合については、「断る」14.9%で、「自分の診療所で対応」75.7%、「在宅訪問診療」29.8%、「施設訪問診療」36.5%、「在宅訪問歯科健診」37.0%、「施設職員や介護者等への歯科保健指導」35.4%、「その他」3.9%であった。

協力する歯科医になった場合の情報公開で「はい」は47.7%であった。

以上、障害者歯科診療に対する制度づくりについて「必要ない」とする者は1割弱で、何らかの関心を有する者が多いことが窺える。また、その多くはその資格を得て自宅での診療を中心にし、在宅や施設での診療、健診、施設職員や介護者等への歯科保健指導を付随的に捉えていることが推測される。

## 12. 障害者保健医療福祉に関連する事項についての認識

意味が大体わかる言葉については、「デイサービス」91.1%、「バリアフリー」90.6%、「ショートステイ」86.2%、「ケアハウス」81.8%、「介護福祉士」80.8%、「ソーシャルワーカー」70.4%、「社会福祉協議会」64.0%、「ケースワーカー」61.6%、「社会福祉士」53.7%、「身体障害者相談員」50.7%、「福祉ホーム」48.8%、「グループホーム」46.8%、「育成医療」45.3%、「ノーマリゼーション」37.9%、「更生援護施設」32.5%、

「セルフアドボカシー」6.4%の順であった。

多くの者がその言葉の意味を理解している。しかしながら、障害者医療福祉の根拠をなす理念であるノーマリゼーションについてはその理解が4割弱であり、この言葉の普及、浸透に努める必要がある。

### 13. 障害者問題に関連する研修会、講演会等への参加希望

希望があるものは63.6%であった。

過半数以上の者がその研修等の受講を希望を有しており、今後、障害者歯科医療を充実させるには、これら希望者層の教育、啓発を充実させることが重要である。また、希望のない者についても、その意義を理解できるような工夫を行い、関心層に換えていけるような「人材の掘り起こし」対策が必要になる。

#### 【年齢区分別の検討】

男女別で年齢区分別に有意の違いはなかった。

歯科診療の実施経験については年齢区分別に有意の違いがあり、50-59歳代、40-49歳代、40歳未満、60歳以上の順に高率で、とりわけ60歳以上が低率であった ( $p<0.05$ )。

以上、60歳以上の者に障害者歯科診療実施の割合が低いことが分かる。

#### 1. 障害者に関する認識や知識

「分かり難い」、「特に難しい」障害については、いずれも年齢区分別に有意の違いはなかった。

「分かり難い」、「特に難しい」の2つを併せて考えると、総じては全体の結果とほぼ同様の傾向であった。しかし、内部障害、複合障害では60歳以上が低率で、年齢区分別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

なお、知的障害については、年齢区分別に有意の違いはなかったが、いずれの年齢区分においても半数以上の者が「分かり難い」、

「特に難しい」としていた。

以上、60歳以上で障害者に関する理解について困難と考える者が多いことが分かる。

#### 2. 障害者歯科診療についての認識

障害者の歯科診療に関して、「取り組み難い」と考えている者は、いずれの障害についても年齢区分別に有意の違いはなかった。

「特に取り組み難い」と考えている者は、総じては全体の結果とほぼ同様の傾向であった。しかし、複合障害では50-59歳代が低率で有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

「取り組み難い」、「特に取り組み難い」の2つを併せて考えると、40歳未満、40-49歳代、50-59歳代、60歳以上の順に高率で有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

なお、知的障害については、年齢区分別に有意の違いはなかったが、いずれの年齢区分においても半数以上の者が「分かり難い」、「特に取り組み難い」としていた。

「困難と思われる点」がある者は年齢区分別に有意の違いはなかった。

その内容では、総じては全体の結果とほぼ同様の傾向であった。しかし、「患者とのコミュニケーション」、「患者の全身管理」、「高齢のため」、「時間の余裕がない」で年齢区分別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

なお、「患者の拒否行動による診療への導入」では60歳以上が低率、「障害者に対する認識不足」では40歳未満、40-49歳代、50-59歳代、60歳以上の順に高率、「障害者治療の経験不足」では40歳未満、40-49歳代、60歳以上、50-59歳代の順に高率、「医療過誤が不安」では50-59歳代が低率、「マンパワーの不足」では60歳以上が低率、「時間の余裕がない」では50-59歳代が低率など、年齢区分別に傾向の違いがあった。

以上、障害者歯科診療では年齢が高くなるにつれて、取り組み難いと捉えている傾向がうかがえる。しかしながら、その要因は年齢区分別に特徴と違いが見られており、今後、

高齢層への教育、啓発をする際には、本結果を踏まえながら行うことが必要と思われる。

### 3. 障害者歯科診療等の受容と経験、他

引き受けていない歯科医療機関では60歳以上が若干高率の傾向にあったが、有意の違いはなかった。

受け入れた場合の処置の内容では、総じては全体の結果とほぼ同様の傾向であった。なお、「他の医療機関を紹介」は60歳以上が高率、「主訴以外の疾患」、「歯科健診や歯科保健指導」、「摂食・嚥下訓練」は60歳以上が低率など、年齢区分別に若干傾向の違いがあった。

以上、60歳以上では障害者歯科診療を引き受けない傾向にあり、主訴以外の疾患、専門性の高い摂食・嚥下訓練等についても消極的であることが窺える。

### 4. 専門関連医療機関での障害者歯科診療等の経験

治療経験のある者は40歳未満、40-49歳代、50-59歳代、60歳以上の順に高率で、年齢区分別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

治療経験のある医療機関の所在地（県内、外）およびその種類では年齢区分別に有意の違いはなかった。

以上、若年層ほど、専門関連医療機関で障害者歯科診療を経験していることが窺える。この傾向は後述する「経験した機関」で救急センターの割合が比較的高いこと、このことが要因の一つと考えられる。つまり、若年層では休日の救急等をもつ機会が多いことが予測され、そのことが障害者歯科診療を経験する機会を増加させていることも考えられる。また、近年では、大学等の教育関連機関で障害者歯科診療に関する教育、実習、研修も充実してきており、そのことも大きな要因といえる。

### 5. 専門関連医療機関への対応

紹介している医療機関の有無では年齢区分別に有意の違いはなかった。

紹介している医療機関の所在地（県内、外）では年齢区分別に有意の違いはなかった。しかし、その種類では香川県身体障害者リハビリテーションセンターで40歳未満が高率で有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

紹介システムの必要性では、「必要」は40歳未満、40-49歳代、50-59歳代、60歳以上の順に高率で有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、若年層ほど、システムづくりに積極的であることが窺える。

### 6. 車椅子での歯科診療等

車椅子のまま診療室に入れるでは、40歳未満、40-49歳代、50-59歳代、60歳以上の順に高率の傾向にあったが、有意の違いはなかった。

以上、若年層の歯科医院では、障害者歯科を視野に入れて歯科医院づくりをしている割合が高いことが窺える。

### 7. 障害者歯科診療等に関する今後の方針

今後の障害者歯科診療では、「できれば行いたくない」は60歳以上が高率、「要望があれば行いたい」、「積極的に行いたい」は60歳以上が低率など、年齢区分別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、60歳以上では将来的に積極的に捉える割合が低いことが窺える。

### 8. 在宅の障害者訪問歯科診療等の受容

在宅の訪問診療では、「断る」は40-49歳代、50-59歳代、40歳未満、60歳以上の順に低率であったが、年齢区分別に有意の違いはなかった。

### 9. 施設の障害者訪問診療等の受容

施設の訪問診療では、「断る」は40歳未満、40-49歳代、50-59歳代、60歳以上の順に低率（60歳以上はとりわけ高率）であったが、

年齢区分別に有意の違いはなかった。

#### 10. 心身障害者への対応

心身障害者への対応では、「断る」は40-49歳代、50-59歳、40歳未満、60歳以上の順に低率で有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。また、いずれの対応内容（「抑制器具や介助なしで治療が出来る場合のみ」、「1~2回の抑制器具や介助が必要だが、その後は通常の治療が出来る場合のみ」、「毎回抑制器具や介助が必要な場合でも」、「静脈鎮静法、笑気鎮静法での治療が必要な場合でも」）についても、60歳以上が低率で、「全身麻酔科での治療が必要でも」はいずれの年齢区分においても皆無であった。

以上、40歳未満では、知識も技術もある者が多いにも拘わらず、日常診療ではそれほど積極的でない、既述してきた状況とは矛盾する面も見られている。この点については、今後更なる検討をする予定である。

#### 11. 障害者歯科診療等に協力する歯科医、相談を受ける歯科医師を定め、登録する制度に関する必要性、対応、他

制度の必要性では、年齢区分別に有意の違いはなかった。その内容（「どちらの制度も必要ない」、「相談を受ける歯科医の制度のみ必要」、「歯科診療に協力する歯科医の制度のみ必要」、「両制度とも必要」）について大きな違いはなく、「わからない」はいずれの年齢区分でも2割前後であった。

制度への対応では、年齢区分別に有意の違いはなかった。その内容（「どちらにもならない」、「相談を受ける歯科医の制度のみになってよい」、「歯科診療に協力する歯科医の制度のみになってよい」、「両制度の歯科医になってよい」）について大きな違いはなく、「わからない」はいずれの年齢区分でも3割前後であった。

協力する歯科医になった場合について、「断る」は60歳以上が高率、「自分の診療所で対

応」、「施設訪問診療」、「在宅訪問歯科健診」、「施設訪問歯科健診」、「施設職員や介護者等への歯科保健指導」は60歳以上がそれぞれ高率で、年齢区分別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、60歳以上では制度上その資格を取得しても、積極的に障害者歯科診療に関わらないことが予測される。

協力する歯科医になった場合の情報公開では、「はい」は50-59歳代、60歳以上が低率で年齢区分別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、若年層では情報公開については積極的であるが、50歳以上では消極的な状況が窺える。

#### 12. 障害保健医療福祉に関連する事項についての認識

意味が大体わかる言葉については、「育成医療」は60歳以上が低率、「社会福祉協議会」は60歳以上が高率など、年齢区分別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、高齢者層では地域の役職として、社会福祉に関連する委員会等へ参加する機会が多いことも本結果には反映されていると考えられる。一方、日常診療に直結する、また、法制度上、日常取り扱うことの多い福祉関連の言葉については、壮・中年、若年層で認識が高いものと推測される。

#### 13. 障害者問題に関連する研修会、講演会等への参加希望

研修会・講演会等への希望のある者は、40歳未満、40-49歳代、50-59歳代、60歳以上の順に高率で、年齢区分別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、研修、教育・啓発については若年層が積極的であることが窺える。

## 【障害者歯科診療実施の有無別の検討】

### 1. 障害者に関する認識や知識

「分かり難い」、「特に難しい」障害、またその2つを併せた場合、いずれの障害についても障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかった。

なお、知的障害についても同様に、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかったが、いずれの区分においても半数以上の者が「分かり難い」、「特に難しい」としていた。

以上、障害者歯科診療を実施していることが、即、認識や知識に繋がらないことを示唆している。

### 2. 障害者歯科診療等についての認識

障害者の歯科診療に関して、「取り組み難い」、「特に取り組み難い」、またその2つを併せた場合、いずれの障害についても障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかった。

なお、知的障害についても同様に、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかったが、いずれの区分においても半数以上の者が「分かり難い」、「特に取り組み難い」としていた。

「困難と思われる点」がある者は障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかった。

その内容では、総じては全体の結果とほぼ同様の傾向であった。しかし、「患者の全身管理」、「障害者に対する認識不足」、「障害者治療の経験不足」は障害者歯科診療実施者が低率で、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

なお、「技術の負担が大きい」、「時間の余裕がない」、「他の患者の迷惑になる」、「採算が合わない」では障害者歯科診療実施者が高率、「高齢のため」、「機材や設備が不十分」、「マンパワーが不足」は障害者歯科診療実施者が低率など、障害者歯科診療実施の有無別に傾向の違いがあった。

以上、障害者歯科診療を実施していることが、障害者の歯科診療に対する負の認識や困難性に繋がっていないことが分かる。また、その内容の結果からも、障害者の歯科診療を実際に経験することによって、その困難性が具体的に取り除かれる可能性があることを推測できる。

### 3. 障害者歯科診療等の受容と経験、他

引き受けていない歯科医療機関では、当然の事ながら障害者歯科診療実施者が圧倒的に低率で、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった。

受け入れた場合の処置の内容についても、障害者歯科診療実施の有無別に大きな違いがあった。なお、「他の医療機関を紹介」、「応急処置」は障害者歯科診療実施者が低率、「主訴の疾患のみ」、「主訴以外の疾患」、「歯科健診や歯科保健指導」、「摂食・嚥下訓練」は障害者歯科診療実施者が高率など、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、前項と同様に障害者歯科診療を実施していることが、障害者の歯科診療の困難性に繋がっていないことが分かる。また、本結果とその内容の結果からも、障害者の歯科診療を実際に経験することによって、むしろその困難性が具体的に取り除かれる可能性があることを示すと推測できる。

### 4. 専門関連医療機関での障害者歯科診療等の経験

他の専門関連医療機関で治療経験のある者は障害者歯科診療実施者が高率で、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

他の専門医療関連機関で治療経験のある医療機関の所在地（県内、外）およびその種類では、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかった。

以上、専門関連医療機関で障害者歯科診療

を経験することが、地域で障害者歯科診療に取り組む契機や積極性を醸成することが期待される。また、その反対に、関連機関で障害者歯科診療を経験したいとする一連のモチベーションが、地域で障害者歯科診療に取り組む姿勢に繋がって行く可能性も推測される。

#### 5. 専門関連医療機関への対応

紹介している医療機関の有無では障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかった。

紹介している医療機関の所在地（県内、外）とその種類では、いずれも障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかった。

紹介システムの必要性で、「必要」は障害者歯科診療実施者で高率で有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、専門関連医療機関の種類別には地域で障害者歯科診療に取り組むか否かに対して大きな影響をもたらさないことが予測される。

一方、地域で障害者歯科診療に取り組む者は、日常診療の中で紹介システムの必要性を痛感する機会が多いことが窺われる。

#### 6. 車椅子での歯科診療

車椅子のまま診療室に入れるでは、障害者歯科診療実施者が高率で有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、日常の障害者歯科診療経験は障害者のための診療室の環境作りに反映することが推測される。

#### 7. 障害者歯科診療等に関する今後の方針

今後の障害者歯科診療では、「できれば行いたくない」は障害者歯科診療実施者が低率、「要望があれば行いたい」、「積極的に行いたい」は障害者歯科診療実施者が高率など、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、障害者歯科診療に携わる者は障害者歯科診療に対して積極的であることが推測される。また、障害者歯科診療を経験すること

によって、障害者歯科診療から遠ざかり、敬遠することは少ないことが窺われる。

#### 8. 在宅の障害者訪問歯科診療等の受容

在宅の訪問診療では、「断る」は障害者歯科診療実施者が低率で、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、前項と同様、障害者歯科診療に携わる者は在宅の障害者歯科診療についても積極的であることが推測される。

#### 9. 施設の障害者訪問歯科診療等の受容

施設の訪問診療では、「断る」は障害者歯科診療実施者が低率で、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、前々項、前項と同様、障害者歯科診療に携わる者は施設の障害者歯科診療についても積極的であることが推測される。

#### 10. 心身障害者への対応

心身障害者への対応では、「断る」は障害者歯科診療実施者が低率で、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった

( $p<0.05$ )。また、対応内容の「1~2回の抑制器具や介助が必要だが、その後は通常の治療が出来る場合のみ」、「毎回抑制器具や介助が必要な場合でも」は歯科診療実施者が高率で、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、前項と同様、障害者歯科診療に携わる者は心身障害者歯科診療についても積極的であることが推測される。

#### 11. 障害者歯科診療等に協力する歯科医、相談を受ける歯科医師を定め、登録する制度に関する必要性、対応、他

制度の必要性では、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかった。その内容の「歯科診療に協力する歯科医の制度のみ必要」、「両制度とも必要」は歯科診療実施者が若干高率、「わからない」は低率の傾向に

あったが、有意の違いはなかった。

制度への対応では、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $P<0.05$ )。その内容の「どちらにもならない」は障害者歯科診療実施者が低率、「相談を受ける歯科医の制度のみになってもよい」、「両制度の歯科医になっても良い」は障害者歯科診療実施者が高率など、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

協力する歯科医になった場合については、「断る」は障害者歯科診療実施者が低率、「自分の診療所で対応」、「在宅訪問歯科診療」、「施設訪問診療」、「施設訪問歯科健診」は障害者歯科診療実施者がそれぞれ高率で、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、障害者歯科診療に携わる者は障害者歯科診療の制度づくりについても積極的であることが推測される。

協力する歯科医になった場合の情報公開では、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかった。

以上、障害者歯科診療に携わる者は障害者歯科診療に関連する情報公開についても積極的であることが推測される。

## 12. 障害保健医療福祉に関連する事項についての認識

意味が大体わかる言葉については、総じて障害者歯科診療実施者が高率であった。その内容の「グループホーム」、「ケアハウス」、「ソーシャルワーカー」、「ケースワーカー」は障害者歯科診療実施者が高率など、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、障害者歯科診療に携わる者は、日常、障害者保健、医療、福祉関係者と関係を有する機会が多く、上記した事項で高率になることが予測される。

## 13. 障害者問題に関連する研修会、講演会等

への参加希望

研修会・講演会等への希望のある者は、障害者歯科診療実施者が高率で、障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった ( $p<0.05$ )。

以上、障害者歯科診療に携わる者は障害者歯科診療に関連する知識、技術への興味が高く、積極的であることが推測される。

## D. まとめ

平成14年2月5日、A県下で開業、県歯科医師会に加入している実地歯科医師全員を対象に障害者問題、障害者歯科診療等に関連する事項について調査を行い、以下の結果を得た。

回答者は男9割強、女1割弱で、年齢は40-49歳代が4割強と一番高く、以下50-59歳代、40歳未満、60歳以上の順であった

障害者の歯科診療を実施したことのある者は8割弱で、1年間の診療人数は1~19人が8割弱と高かった。

1. 障害者に関する認識や知識：障害者に関して、その障害者の状況や内容が「分かり難い」、「特に分かり難い」と考えているものは、併せて複合障害、精神障害、内部障害、知的障害の順であった。

2. 障害者歯科診療等についての認識：障害者の歯科診療に関して、「取り組み難い」。

「特に取り組み難い」と考えているものは、併せて精神障害、複合障害、知的障害、内部障害の順であった。以上の結果は前項の認識とほぼ同様の状況であり、分かり易さと歯科診療へのアプローチはある程度関連して捉えていることが推測される。

困難と思われる点がある者は93.8%で、その内容は患者とのコミュニケーション、患者の拒否行動による診療への導入、患者の体動の抑制、救急体制の問題、障害者治療の経験不足、患者の全身管理、医療過誤が不安、機材や設備が不十分、技術の負担が大きい、障害者に対する認識不足、マンパワーの不足、時間の余裕がない、採算が合わない、他の患

者の迷惑になる、高齢のための順であった。

3. 障害者歯科治療等の受容と経験、他：引き受けていない歯科医療機関は0.5割弱で、処置については主訴の疾患のみ、主訴以外の疾患、歯科健診や歯科保健指導、応急処置、他の医療機関を紹介、摂食・嚥下訓練、相談の順であった。

4. 専門関連医療機関での障害者歯科診療等の経験：治療経験のあるものは3割弱で、県内3割強、県外7割弱であった。その経験先は高松市救急センター、徳島大学歯学部、歯科のある病院、歯科医院（開業医）、身体障害者リハビリテーションセンター、岡山大学歯学部、香川医科大学の順であった。

5. 専門関連医療機関への対応：紹介している医療機関については、「あり」が5割弱で、県内9割強、県外2割強（複数回答）であった。紹介している医療機関は、高松市救急センター、香川医科大学、歯科のある病院、身体障害者リハビリテーションセンター、岡山大学歯学部、徳島大学歯学部、歯科医院（開業医）の順であった。

紹介システムについては、「必要ない」は0.5割弱であった。

6. 車椅子での歯科診療等：車椅子については、「入れる」は6割強、「今は入れないが将来的には入れるようにしたい」2割強、「今は入れないし今後も予定はない」3割強であった。

7. 障害者歯科診療等に関する今後の方針：「できれば行いたくない」3割弱、「要望があれば行いたい」7割弱、「積極的に行いたい」0.5割であった。

8. 在宅の障害者訪問歯科診療等の受容：「断る」は3割弱であった。

在宅の障害者歯科診療については、ほぼ5人に4人の割合で引き受ける状況にあることが推測される。

9. 施設の障害者訪問歯科診療等の受容：「断る」は2割強であった。

10. 心身障害者への対応：「断る」は2割強

であった。対応の内容では、「抑制器具や介助なしで治療が出来る場合のみ」、「1~2回の抑制器具や介助が必要だが、その後は通常の治療が出来る場合のみ」、「毎回抑制器具や介助が必要な場合でも」、「静脈鎮静法、笑気鎮静法での治療が必要な場合でも」の順で、「全身麻酔科での治療が必要でも」は皆無であった。

11. 障害者歯科診療等に協力する歯科医、相談を受ける歯科医師を定め、登録する制度に関する必要性、対応、他

「どちらの制度も必要ない」は1割弱であった。協力する歯科医になった場合については、「断る」は2割強で、対応の内容は「自分の診療所に対応」、「在宅訪問診療」、「施設訪問診療」、「在宅訪問歯科健診」、「施設訪問歯科健診」、「施設職員や介護者等への歯科保健指導」の順であった。

協力する歯科医になった場合の情報公開で「はい」は5割弱であった。

12. 障害者保健医療福祉に関連する事項についての認識

意味が大体わかる言葉については、「デイサービス」、「バリアフリー」、「ショートステイ」、「ケアハウス」、「介護福祉士」、「ソーシャルワーカー」、「社会福祉協議会」、「ケースワーカー」、「社会福祉士」、「身体障害者相談員」、「福祉ホーム」、「グループホーム」、「育成医療」、「ノーマリゼーション」、「更生援護施設」、「セルフアドボカシー」の順であった。

13. 障害者問題に関連する研修会、講演会等への参加希望

希望があるものは6割強であった。

一年齢区分別の検討-

男女別で年齢区分別に有意の違いはなかった。歯科診療の実施経験については60歳以上が低率であった。

1. 障害者に関する認識や知識：60歳以上で障害者に関する理解について困難と考えて



いた。

2. 障害者歯科診療についての認識：障害者歯科診療では年齢が高くなるにつれて、取り組み難いと捉えている傾向であった。また、その要因は年齢区分別に特徴と違いがあった。

3. 障害者歯科診療等の受容と経験、他：60歳以上では障害者歯科診療は引き受けない傾向にあり、主訴以外の疾患、専門性の高い摂食・嚥下訓練等についても消極的であった。

4. 専門関連医療機関での障害者歯科診療等の経験：若年層ほど、専門関連医療機関で障害者歯科診療を経験していた。

5. 専門関連医療機関への対応：紹介している医療機関の有無では年齢区分別に有意の違いはなかった。紹介している医療機関の所在地（県内、外）では年齢区分別に有意の違いはなかった。また、若年層ほど、システムづくりに積極的であった。

6. 車椅子での歯科診療等：若年層の歯科医院では、障害者歯科を視野に入れて歯科医院づくりをしていた。

7. 障害者歯科診療等に関する今後の方針：60歳以上では今後の方針は積極的であった。

8. 在宅の障害者訪問歯科診療等の受容：年齢区分別に違いはなかった。

9. 施設の障害者訪問診療等の受容：年齢区分別に違いはなかった。

10. 心身障害者への対応：「断る」は40-49歳代、50-59歳、40歳未満、60歳以上の順で違いがあった。対応内容ではいずれの事項も60歳以上が低率であった。

11. 障害者歯科診療等に協力する歯科医、相談を受ける歯科医師を定め、登録する制度に関する必要性、対応、他：必要性、対応とも年齢区分別に違いはなかった。協力する歯科医になった場合の情報公開では、若年層では積極的であった。

12. 障害保健医療福祉に関連する事項についての認識：「育成医療」は60歳以上が低率、障害者歯科診療実施の有無別に違いがあった。

9. 施設の障害者訪問歯科診療等の受容：「断

「社会福祉協議会」は60歳以上が高率など、年齢区分別に違いがあった。

13. 障害者問題に関連する研修会、講演会等への参加希望：若年層が積極的であった。

-障害者歯科診療実施の有無別の検討-

1. 障害者に関する認識や知識：障害者歯科診療実施の有無別に違いはなかった。

2. 障害者歯科診療等についての認識：障害者歯科診療実施の有無別に違いはなかった。その内容では、「患者の全身管理」、「障害者に対する認識不足」、「障害者治療の経験不足」は障害者歯科診療実施者が低率で、障害者歯科診療実施の有無別に違いがあった。

3. 障害者歯科診療等の受容と経験、他：当然の事ながら障害者歯科診療実施者が圧倒的に低率で、障害者歯科診療実施の有無別に違いがあった。

4. 専門関連医療機関での障害者歯科診療等の経験：他の専門関連医療機関で治療経験のある者は障害者歯科診療実施者が高率で、障害者歯科診療実施の有無別に違いがあった。

5. 専門関連医療機関への対応：紹介している医療機関の有無、紹介している医療機関の所在地（県内、外）とその種類はいずれも障害者歯科診療実施の有無別に違いはなかった。紹介システムの必要性は障害者歯科診療実施者が高率で違いがあった。

6. 車椅子での歯科診療：車椅子のまま診療室に入れるは障害者歯科診療実施者が高率で違いがあった ( $p<0.05$ )。

7. 障害者歯科診療等に関する今後の方針：今後の障害者歯科診療は「できれば行いたくない」は障害者歯科診療実施者が低率、「要望があれば行いたい」、「積極的に行いたい」は障害者歯科診療実施者が高率など、障害者歯科診療実施の有無別に違いがあった。

8. 在宅の障害者訪問歯科診療等の受容：「断る」は障害者歯科診療実施者が低率で、「断る」は障害者歯科診療実施者が低率で、障害者歯科診療実施の有無別に違いがあった。

10. 心身障害者への対応：「断る」は障害者歯科診療実施者が低率で、障害者歯科診療実施の有無別に違いがあった。0

11. 障害者歯科診療等に協力する歯科医、相談を受ける歯科医師を定め、登録する制度に関する必要性、対応、他：必要性は障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いはなかった。対応は障害者歯科診療実施の有無別に有意の違いがあった。

協力する歯科医になった場合の情報公開は障害者歯科診療実施の有無別に違いはなかった。

12. 障害保健医療福祉に関連する事項についての認識：意味が大体わかる言葉については、総じて障害者歯科診療実施者が高率で、その内容の「グループホーム」、「ケアハウス」、「ソーシャルワーカー」、「ケースワーカー」は障害者歯科診療実施者が高率で障害者歯科診療実施の有無別に違いがあった。

13. 障害者問題に関連する研修会、講演会等への参加希望：研修会・講演会等への希望のある者は障害者歯科診療実施者が高率で、障害者歯科診療実施の有無別に違いがあった。

以上のように、今回の調査により、実地歯科医師の障害者問題、障害者歯科診療等に関する状況とそれらの年齢別、障害者歯科診療経験別の違いが詳細に把握できた。

今後は、これらの結果を知的障害者の意識や知識別に分析検討すると共に、各要因で因子分析等も加え、「知的障害者の歯科治療におけるノーマリゼーション」実現を効率的かつ確実に進めていけるよう更なる検討をする予定である。

## 性別(SA)

	件数	% (除不非)
男	188	91.3
女	18	8.7
不明・非該当	6	
合計	212	100.0

## 年齢(数量)

	件数	% (除不非)
25～29歳	2	1.0
30～34歳	10	4.9
35～39歳	23	11.3
40～44歳	54	26.8
45～49歳	33	16.3
50～54歳	35	17.2
55～59歳	23	11.3
60～64歳	7	3.4
65～69歳	8	3.9
70～74歳	4	2.0
75～79歳	2	1.0
80歳以上	2	1.0
不明・非該当	9	
合計	212	100.0

## 1. 歯科診療実施(SA)

	件数	% (除不非)
いいえ	49	23.3
はい	161	76.7
不明・非該当	2	
合計	212	100.0

## 1. 年間診療人数(SA)

	件数	% (除不非)
0名	1	0.7
1～19名	113	77.9
20名以上	31	21.4
不明・非該当	67	
合計	212	100.0

## 2-①. 分かり難い 障害者に対する知識(MA)

	件数	% (除不非)
視覚障害	22	11.8
聴覚障害	30	15.8
知的障害	93	48.9
身体障害	37	19.5
内部障害	82	43.2
精神障害	90	47.4
複合障害	46	24.2
不明・非該当	22	
合計	212	100.0

## 2-①. 特に難しい 障害者に対する知識(MA)

	件数	% (除不非)
視覚障害	2	1.3
聴覚障害	3	1.9
知的障害	25	15.8
身体障害	5	3.2
内部障害	48	30.4
精神障害	58	36.7
複合障害	111	70.3
不明・非該当	54	
合計	212	100.0

## 2-①. 「分かり難い」「特に難しい」障害者に対する知識(MA)

	件数	% (除不非)
視覚障害	24	11.8
聴覚障害	33	16.2
知的障害	118	57.8
身体障害	41	20.1
内部障害	130	83.7
精神障害	148	72.5
複合障害	158	77.5
不明・非該当	8	
合計	212	100.0

## 2-②. 取り組み難い 障害者に対する歯科診療(MA)

	件数	% (除不非)
視覚障害	19	10.1
聴覚障害	39	20.8
知的障害	102	54.0
身体障害	42	22.2
内部障害	82	32.8
精神障害	101	53.4
複合障害	58	30.7
不明・非該当	23	
合計	212	100.0

## 2-②. 特に取り組み難い 障害者に対する歯科診療(MA)

	件数	% (除不非)
視覚障害	4	2.9
聴覚障害	6	3.9
知的障害	35	22.9
身体障害	8	5.2
内部障害	20	13.1
精神障害	73	47.7
複合障害	111	72.5
不明・非該当	59	
合計	212	100.0

## 2-②. 「取り組み難い」「特に取り組み難い」障害者に対する歯科診療(MA)

	件数	% (除不非)
視覚障害	23	11.2
聴覚障害	44	21.5
知的障害	137	68.8
身体障害	49	23.9
内部障害	82	40.0
精神障害	174	84.9
複合障害	171	83.4
不明・非該当	7	
合計	212	100.0

## 3. 困難と思われる点 有無(SA)

	件数	% (除不非)
なし	13	6.2
あり	196	93.8
不明・非該当	3	
合計	212	100.0

## 3. 困難と思われる点 内容(MA)

	件数	% (除不非)
患者とのコミュニケーション	118	60.2
患者の全身管理	107	54.6
患者の拒否行動による診療への導入	111	58.6
患者の体動の抑制	110	58.1
救急体制の問題	110	58.1
技術の負担が大きい	96	49.0
障害者に対する認識不足	93	47.4
障害者治療の経験不足	109	55.8
高齢のため	12	6.1
医療過誤が不安	96	49.0
器材や設備が不十分	94	48.0
マンパワーの不足	71	36.2
時間の余裕がない	83	32.1
他の患者の迷惑になる	24	12.2
採算が合わない	44	22.4
その他	6	3.1
不明・非該当	16	
合計	212	100.0

## 4. 処置の対応程度(SA)

	件数	% (除不非)
引き受けていない	8	3.8
相談	1	0.5
他の医療機関を紹介	6	2.9
応急処置	19	9.1
主訴の疾患のみ	73	35.1
主訴以外の疾患	53	25.5
歯科健診や歯科保健指導	26	12.5
摂食・嚥下訓練	8	2.9
その他	18	7.7
不明・非該当	4	
合計	212	100.0

## 5. 携わったことがある医療機関 有無(SA)

	件数	% (除不非)
なし	148	71.2
あり	60	28.8
不明・非該当	4	
合計	212	100.0

## 5. 携わったことがある医療機関 県内外(MA)

	件数	% (除不非)
県内	23	39.7
県外	40	69.0
不明・非該当	154	
合計	212	100.0

5. 携わったことがある医療施設・機関名(MA)

	件数	% (除不非)
高松市歯科救急センター	12	20.7
香川県身体障害者総合リハビリセンター	5	8.8
香川医科大学	2	3.4
岡山大学歯学部	4	6.9
徳島大学歯学部	9	15.5
歯科のある病院	8	13.8
歯科医院(開業医)	6	10.3
その他	23	39.7
不明・非該当	154	
合計	212	100.0

6. 紹介している医療機関 有無(SA)

	件数	% (除不非)
なし	103	50.2
あり	102	49.8
不明・非該当	7	
合計	212	100.0

6. 紹介している医療機関 県内外(MA)

	件数	% (除不非)
県内	94	93.1
県外	15	14.9
不明・非該当	111	
合計	212	100.0

6. 紹介している医療施設・機関名(MA)

	件数	% (除不非)
高松市歯科救急センター	56	58.6
香川県身体障害者総合リハビリセンター	11	11.1
香川医科大学	15	15.2
岡山大学歯学部	7	7.1
徳島大学歯学部	4	4.0
歯科のある病院	15	15.2
歯科医院(開業医)	2	2.0
その他	9	9.1
不明・非該当	113	
合計	212	100.0

7. 紹介システム(SA)

	件数	% (除不非)
必要ない	7	3.3
必要	183	91.9
わからない	10	4.8
不明・非該当	2	
合計	212	100.0

8. 車椅子(SA)

	件数	% (除不非)
入れる	124	59.0
今は入れないが将来的には入れようとしたい	36	17.1
今入れないし今後も予定はない	50	23.8
不明・非該当	2	
合計	212	100.0

9. 今後の歯科診療(SA)

	件数	% (除不非)
できれば行いたくない	57	27.4
要望があれば行いたい	140	67.3
積極的に行いたい	11	5.3
不明・非該当	4	
合計	212	100.0

10. 在宅の訪問診療の依頼(SA)

	件数	% (除不非)
断る	48	23.1
障害の程度や治療の内容によって引き受ける	130	62.5
とりあえずすべて引き受ける	30	14.4
不明・非該当	4	
合計	212	100.0

11. 施設の訪問診療の依頼(SA)

	件数	% (除不非)
断る	47	22.9
障害の程度や治療の内容によって引き受ける	125	61.0
とりあえずすべて引き受ける	33	16.1
不明・非該当	7	
合計	212	100.0

12. 心身障害者への対応(SA)

	件数	% (除不非)
断る	33	16.3
抑制器具や介助なしで治療ができる場合のみ	98	48.3
1~2回の抑制器具や介助が必要だが その後は通常の治療ができる場合のみ	48	23.8
毎回抑制器具や介助が必要な場合でも	20	9.9
静脈鎮静法、笑気鎮静法での治療が必要な場合でも	4	2.0
全身麻酔下での治療が必要な場合でも	0	0.0
不明・非該当	9	
合計	212	100.0

13. 協力する歯科医、相談を受ける歯科医を定め登録する制度 必要性(SA)

	件数	% (除不非)
どちらの制度も必要ない	17	8.2
相談を受ける歯科医の制度のみ必要	13	6.3
歯科診療に協力する歯科医の制度のみ必要	26	12.5
両制度とも必要	104	50.0
わからない	48	23.1
不明・非該当	4	
合計	212	100.0

14. 協力する歯科医、相談を受ける歯科医を定め登録する制度 対応(SA)

	件数	% (除不非)
どちらにもならない	33	18.2
相談を受ける歯科医にのみなってもよい	40	19.8
歯科診療に協力する歯科医にのみなってもよい	17	8.3
両制度の歯科医になってもよい	50	24.5
わからない	64	31.4
不明・非該当	8	
合計	212	100.0

15. 協力する歯科医になった場合 対応(MA)

	件数	% (除不非)
断る	27	14.9
貴医院の診療室での歯科診療	137	75.7
在宅訪問歯科診療	54	29.8
施設訪問歯科診療	66	38.5
在宅訪問歯科健診	60	33.1
施設訪問歯科健診	67	37.0
施設職員や介護者等への歯科保健指導	64	35.4
その他	7	3.9
不明・非該当	31	
合計	212	100.0

16. 協力する歯科医になった場合 情報公開(SA)

	件数	% (除不非)
いいえ	92	52.3
はい	84	47.7
不明・非該当	36	
合計	212	100.0

17. 意味の大体わかる語句(MA)

	件数	% (除不非)
ノーマリゼーション	77	37.9
セルフアドボカシー	13	6.4
ショートステイ	175	88.2
デイサービス	185	91.1
身体障害者相談員	103	50.7
グループホーム	95	48.8
バリアフリー	184	90.6
ケアハウス	188	91.8
ソーシャルワーカー	143	70.4
社会福祉士	109	53.7
介護福祉士	184	90.8
育成医療	92	45.3
福祉ホーム	99	48.8
更正医療施設	66	32.5
ケースワーカー	125	61.8
社会福祉協議会	130	64.0
不明・非該当	9	
合計	212	100.0

18. 研修会・講演会等の希望(SA)

	件数	% (除不非)
いいえ	67	36.4
はい	117	63.6
不明・非該当	28	
合計	212	100.0

性別

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	35 100.0	88 100.0	58 100.0		22 100.0		
男	31 88.6	78 90.7	56 96.6	19 86.4		39 83.0	147 93.6	
女	4 11.4	8 9.3	2 3.5	3 13.6		8 17.0	10 6.4	

## 1. 歯科診療実施

	年齢4区分				有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上	
	合計	35 100.0	87 100.0	57 100.0	
いいえ	8 22.9	17 19.5	10 17.5	10 45.5	
はい	27 77.1	70 80.5	47 82.5	12 54.6	*

## 1. 年間診療人数の項目

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	28 100.0	81 100.0	43 100.0		10 100.0		
0名	0 0.0	0 0.0	1 2.3	0 0.0		0 0.0	1 0.7	
1~19名	20 78.9	49 80.3	35 81.4	7 70.0		4 100.0	109 77.3	
20名以上	6 23.1	12 19.7	7 16.3	3 30.0		0 0.0	31 22.0	

## 2-①. 分かり難い障害者に対する知識

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	29 100.0	79 100.0	52 100.0		22 100.0		
視覚障害	2 6.9	11 13.9	7 13.5	1 4.6		5 11.4	17 11.8	
聴覚障害	5 17.2	12 15.2	8 15.4	4 18.2		8 18.2	22 15.3	
知的障害	18 55.2	35 44.3	27 51.9	11 50.0		19 43.2	74 51.4	
身体障害	3 10.3	18 22.8	13 25.0	2 9.1		10 22.7	26 18.1	
内部障害	14 48.3	30 38.0	25 48.1	7 31.8		21 47.7	60 41.7	
精神障害	17 58.6	36 45.6	24 46.2	10 45.5		18 40.9	72 50.0	
複合障害	9 31.0	16 20.3	14 26.9	5 22.7		13 29.6	33 22.9	

## 2-①. 特に関しい障害者に対する知識

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	28 100.0	88 100.0	41 100.0		15 100.0		
視覚障害	1 3.8	0 0.0	0 0.0	1 6.7		1 2.7	1 0.8	
聴覚障害	0 0.0	3 4.4	0 0.0	0 0.0		0 0.0	3 2.5	
知的障害	6 21.4	14 20.6	3 7.3	2 13.3		7 18.9	17 14.3	
身体障害	1 3.6	2 2.9	1 2.4	0 0.0		2 5.4	3 2.5	
内部障害	9 32.1	22 32.4	13 31.7	2 13.3		14 37.8	34 28.6	
精神障害	9 32.1	24 35.3	18 43.9	5 33.3		14 37.8	43 36.1	
複合障害	23 82.1	51 75.0	23 56.1	10 66.7		24 64.9	86 72.3	

## 2-①. 「分かり難い」「特に関しい」障害者に対する知識

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	33 100.0	86 100.0	53 100.0		23 100.0		
視覚障害	3 9.1	11 12.8	7 13.2	2 8.7		6 12.5	18 11.7	
聴覚障害	5 15.2	15 17.4	8 15.1	4 17.4		8 16.7	25 16.2	
知的障害	22 66.7	49 57.0	30 56.6	13 56.5		28 54.2	91 59.1	
身体障害	4 12.1	20 23.3	13 24.5	2 8.7		12 25.0	28 18.2	
内部障害	23 69.7	52 60.5	38 71.7	9 39.1	*	35 72.5	94 61.0	
精神障害	26 78.8	66 69.8	42 79.3	15 65.2		37 66.7	115 74.7	
複合障害	32 97.0	67 77.5	38 71.7	15 65.2	*	37 77.1	120 77.9	

2-②. 取り組み難い 障害者に対する歯科診療

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	31 100.0	74 100.0	55 100.0		20 100.0		
視覚障害	4 12.9	9 12.2	3 5.5	1 5.0		7 15.6	12 8.5	
聴覚障害	9 29.0	18 24.3	8 14.6	4 20.0		7 15.6	31 21.8	
知的障害	18 58.1	37 50.0	32 58.2	10 50.0		26 57.8	76 53.5	
身体障害	4 12.9	20 27.0	13 23.6	5 25.0		12 26.7	29 20.4	
内部障害	11 35.5	25 33.8	15 27.3	8 30.0		17 37.8	44 31.0	
精神障害	17 54.8	37 50.0	32 58.2	9 45.0		20 44.4	81 57.0	
複合障害	9 29.0	24 32.4	20 36.4	2 10.0		12 26.7	48 32.4	

2-②. 特に取り組み難い 障害者に対する歯科診療

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	29 100.0	82 100.0	41 100.0		15 100.0		
視覚障害	0 0.0	3 4.8	0 0.0	1 6.7		2 5.7	2 1.7	
聴覚障害	1 3.5	3 4.8	2 4.9	0 0.0		1 2.9	5 4.3	
知的障害	7 24.1	20 32.3	5 12.2	3 20.0		12 34.3	22 19.0	
身体障害	2 6.9	3 4.8	2 4.9	0 0.0		4 11.4	4 3.5	
内部障害	4 13.8	9 14.5	5 12.2	1 6.7		4 11.4	18 13.8	
精神障害	14 48.3	30 48.4	22 53.7	5 33.3		21 60.0	51 44.0	
複合障害	26 89.7	45 72.6	24 58.5	12 80.0	*	27 77.1	82 70.7	

2-②. 「取り組み難い」「特に取り組み難い」障害者に対する歯科診療

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	35 100.0	84 100.0	58 100.0		21 100.0		
視覚障害	4 11.4	12 14.3	3 5.4	2 9.5		9 18.8	14 9.0	
聴覚障害	10 28.6	20 23.8	10 17.9	4 19.1		8 16.7	35 22.8	
知的障害	25 71.4	57 67.9	38 67.9	12 57.1		37 77.1	99 63.9	
身体障害	6 17.1	22 26.2	15 26.8	5 23.8		16 33.3	32 20.7	
内部障害	15 42.9	34 40.5	20 35.7	7 33.3		21 43.8	80 38.7	
精神障害	31 88.6	68 81.0	52 92.9	15 71.4		42 87.5	131 84.5	
複合障害	35 100.0	71 84.5	44 76.6	14 66.7	*	39 81.3	130 83.9	

3. 困難と思われる点 有無

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	35 100.0	86 100.0	57 100.0		22 100.0		
なし	2 5.7	5 5.8	3 5.3	2 9.1		2 4.2	11 6.9	
あり	33 94.3	81 94.2	54 94.7	20 90.9		46 95.8	148 93.1	

3. 困難と思われる点 内容

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	33 100.0	81 100.0	54 100.0		20 100.0	46 100.0	
患者とのコミュニケーション	27 81.8	49 60.5	25 46.3	12 60.0	26 56.5	91 81.5		
患者の全身管理	21 63.6	51 63.0	24 44.4	7 35.0	31 67.4	75 60.7	*	
患者の拒否行動による診療への導入	21 63.6	50 61.7	27 50.0	7 35.0	28 60.9	62 55.4		
患者の体験の抑制	19 57.6	50 61.7	26 48.2	11 55.0	26 56.5	82 55.4		
救急体制の問題	20 60.6	49 60.5	24 44.4	11 55.0	31 67.4	78 62.7		
技術の負担が大きい	16 48.5	37 45.7	30 55.6	10 50.0	17 37.0	78 62.7		
障害者に対する認識不足	20 60.6	38 46.9	23 42.8	7 35.0	28 60.9	63 52.6	*	
障害者治療の経験不足	21 63.6	50 61.7	24 44.4	10 50.0	35 78.1	72 60.7	*	
高齢のため	2 6.1	2 2.5	1 1.9	7 35.0	5 10.9	7 5.7		
医療過酷が不安	21 63.6	42 51.9	21 38.9	10 50.0	25 54.4	70 57.3		
器材や設備が不十分	16 48.5	40 49.4	24 44.4	11 55.0	27 58.7	65 53.9		
マンパワーの不足	11 33.3	31 38.3	20 37.0	5 25.0	21 45.7	48 39.4		
時間の余裕がない	14 42.4	31 38.3	9 16.7	6 30.0	11 23.9	52 42.7		
他の患者の迷惑になる	6 18.2	8 9.9	4 7.4	5 25.0	2 4.4	22 17.9		
採算が合わない	6 18.2	18 22.2	14 25.9	5 25.0	8 17.0	37 30.5		
その他	1 3.0	4 4.9	1 1.9	0 0.0	1 2.2	5 4.1		

4. 処置の対応程度

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	35 100.0	86 100.0	58 100.0		23 100.0	48 100.0	
引き受けていない	2 5.7	3 3.5	1 1.8	2 8.7	7 14.6	1 0.6		
相談	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.4	1 2.1	0 0.0		
他の医療機関を紹介	1 2.9	2 2.3	0 0.0	3 13.0	4 8.3	2 1.3		
応急処置	4 11.4	6 7.0	5 8.9	3 13.0	12 25.0	7 5.6		
主訴の疾患のみ	8 22.9	34 39.5	22 39.3	8 34.8	13 27.1	60 48.0	*	
主訴以外の疾患	8 22.9	24 27.9	17 30.4	3 13.0	1 2.1	52 42.9		
歯科健診や歯科保健指導	7 20.0	10 11.8	8 10.7	1 4.4	1 2.1	24 19.2		
授食・嚥下訓練	1 2.9	3 3.5	1 1.8	0 0.0	0 0.0	6 4.8		
その他	4 11.4	4 4.7	4 7.1	2 8.7	9 18.8	6 4.8		

5. 携わったことがある医療機関 有無

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	34 100.0	86 100.0	57 100.0		22 100.0	49 100.0	
なし	19 55.9	60 69.8	43 75.4	21 95.5	43 87.8	103 85.6	*	
あり	15 44.1	26 30.2	14 24.6	1 4.5	6 12.2	54 44.4		

5. 携わったことがある医療機関 県内外

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	14 100.0	25 100.0	14 100.0		1 100.0	6 100.0	
県内	6 42.9	11 44.0	5 35.7	0 0.0	4 68.7	19 36.5		
県外	10 71.4	16 64.0	10 71.4	1 100.0	3 50.0	37 71.2		

5. 変わったことがある医療施設・機関名

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	15 100.0	24 100.0	14 100.0	1 100.0		8 100.0	52 100.0	
高松市歯科救急センター	2 13.3	4 16.7	5 35.7	0 0.0		2 33.3	10 19.2	
香川県身体障害者総合リハビリセンター	3 20.0	2 8.3	0 0.0	0 0.0		2 33.3	3 5.8	
香川医科大学	0 0.0	2 8.3	0 0.0	0 0.0		0 0.0	2 3.9	
岡山大学歯学部	1 6.7	2 8.3	0 0.0	0 0.0		1 16.7	3 5.8	
徳島大学歯学部	3 20.0	3 12.5	1 7.1	0 0.0		0 0.0	9 17.3	
歯科のある病院	1 6.7	4 16.7	3 21.4	0 0.0		0 0.0	8 15.4	
歯科医院(開業医)	3 20.0	2 8.3	1 7.1	0 0.0		1 16.7	5 9.6	
その他	6 40.0	9 37.5	7 50.0	1 100.0		1 16.7	22 42.3	

6. 紹介している医療機関 有無

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	34 100.0	84 100.0	55 100.0	23 100.0		48 100.0	155 100.0	
なし	19 55.9	36 42.9	30 54.6	13 56.5		28 58.3	73 47.1	
あり	15 44.1	48 57.1	25 45.5	10 43.5		20 41.7	82 52.9	

6. 紹介している医療機関 県内外

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	15 100.0	48 100.0	25 100.0	9 100.0		20 100.0	81 100.0	
県内	15 100.0	48 95.8	21 84.0	9 100.0		19 95.0	75 92.8	
県外	1 6.7	5 10.4	7 28.0	1 11.1		2 10.0	13 16.1	

6. 医療施設・機関名

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	15 100.0	48 100.0	23 100.0	9 100.0		18 100.0	81 100.0	
高松市歯科救急センター	6 40.0	27 56.3	18 69.6	5 55.6		13 72.2	43 53.1	
香川県身体障害者総合リハビリセンター	5 33.3	4 8.3	2 8.7	0 0.0	*	3 16.7	8 9.9	
香川医科大学	2 13.3	10 20.8	1 4.4	2 22.2		1 5.6	14 17.3	
岡山大学歯学部	1 6.7	2 4.2	2 8.7	1 11.1		1 5.6	6 7.4	
徳島大学歯学部	0 0.0	3 6.3	1 4.4	0 0.0		0 0.0	4 4.9	
歯科のある病院	2 13.3	9 18.8	2 8.7	1 11.1		1 5.6	14 17.3	
歯科医院(開業医)	1 6.7	1 2.1	0 0.0	0 0.0		0 0.0	2 2.5	
その他	3 20.0	2 4.2	2 8.7	2 22.2		1 5.6	8 9.9	

7. 紹介システム

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	35 100.0	88 100.0	57 100.0	23 100.0		49 100.0	159 100.0	
必要ない	0 0.0	4 4.7	3 5.3	0 0.0		1 2.0	6 3.8	
必要	35 100.0	80 93.0	50 87.7	19 82.6	*	42 85.7	149 93.7	*
わからない	0 0.0	2 2.3	4 7.0	4 17.4		6 12.2	4 2.5	

8. 車椅子

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	35 100.0	88 100.0	57 100.0	23 100.0		49 100.0	159 100.0	
入れる	23 65.7	57 66.3	31 54.4	9 39.1		20 40.8	102 64.2	
今は入れないが将来的には入れるようにしたい	6 17.1	12 14.0	12 21.1	5 21.7		8 16.3	28 17.6	*
今入れないし今後も予定はない	6 17.1	17 19.8	14 24.6	9 39.1		21 42.9	29 18.2	



9. 今後の歯科診療

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	35 100.0	86 100.0	56 100.0	22 100.0		48 100.0	158 100.0	
できれば行いたくない	8	18	16	13		26	31	
要望があれば行いたい	22.9	20.9	28.6	59.1	*	54.2	19.6	*
積極的にやりたい	24	65	36	9		22	116	
	68.6	75.6	64.3	40.9		45.8	73.4	
	3	3	4	0		0	11	
	8.6	3.5	7.1	0.0		0.0	7.0	

10. 在りの訪問診療の依頼

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	35 100.0	85 100.0	57 100.0	22 100.0		48 100.0	158 100.0	
断る	9	15	13	8		17	31	
障害の程度や治療の内容によって引き受ける	25.7	17.7	22.8	36.4		35.4	19.6	
とりあえずすべて引き受ける	21	54	37	14		30	98	
	60.0	63.5	64.9	63.6		62.5	62.0	*
	5	16	7	0		1	29	
	14.3	18.8	12.3	0.0		2.1	18.4	

11. 施設の訪問診療の依頼

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	35 100.0	84 100.0	56 100.0	21 100.0		47 100.0	156 100.0	
断る	6	16	14	8		17	30	
障害の程度や治療の内容によって引き受ける	17.1	19.1	25.0	38.1		36.2	18.2	
とりあえずすべて引き受ける	22	52	34	13		27	97	
	62.9	61.9	60.7	61.9		57.5	62.2	*
	7	16	8	0		3	29	
	20.0	19.1	14.3	0.0		6.4	18.6	

12. 心身障害者への対応

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	33 100.0	85 100.0	57 100.0	19 100.0		47 100.0	154 100.0	
断る	5	10	7	10		17	16	
抑制器具や介助なしで治療ができる場合のみ	15.2	11.8	12.3	52.6		36.2	10.4	
1~2回の抑制器具や介助が必要だがその後は通常の治療ができる場合のみ	11	42	32	8		23	73	
	33.3	49.4	56.1	42.1		48.3	47.4	
毎回抑制器具や介助が必要な場合でも	9	25	11	1		6	42	
	27.3	29.4	19.3	5.3	*	12.3	27.3	*
静脈鎮静法、笑気鎮静法での治療が必要な場合でも	7	7	5	0		0	20	
	21.2	8.2	8.8	0.0		0.0	13.0	
全身麻酔下での治療が必要な場合でも	1	1	2	0		1	3	
	3.0	1.2	3.5	0.0		2.1	2.0	
	0	0	0	0		0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	

13. 協力する歯科医、相談を受ける歯科医を定める制度 必要性

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	35 100.0	86 100.0	56 100.0	22 100.0		49 100.0	157 100.0	
どちらの制度も必要ない	3	7	6	1		5	12	
	8.6	8.1	10.7	4.6		10.2	7.6	
相談を受ける歯科医の制度のみ必要	1	4	6	2		3	9	
	2.9	4.7	10.7	9.1		6.1	5.7	
歯科診療に協力する歯科医の制度のみ必要	4	13	4	4		4	21	
	11.4	15.1	7.1	18.2		8.2	13.4	
両制度とも必要	20	41	30	9		19	85	
	57.1	47.7	53.6	40.9		38.8	54.1	
わからない	7	21	10	6		18	30	
	20.0	24.4	17.9	27.3		35.7	19.1	

14. 協力する歯科医、相談を受ける歯科医を定める制度 対応

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
合計	35 100.0	84 100.0	53 100.0	23 100.0		48 100.0	155 100.0	
どちらにもならない	5	12	6	8		15	18	
	14.3	14.3	11.3	34.8		31.3	11.6	
相談を受ける歯科医にのみなってもよい	8	16	11	5		8	32	
	22.9	19.1	20.8	21.7		16.7	20.7	
歯科診療に協力する歯科医にのみなってもよい	1	6	6	3		4	13	
	2.9	7.1	11.3	13.0		8.3	8.4	
両制度の歯科医になってもよい	10	27	10	1		4	46	
	28.6	32.1	18.9	4.4		8.3	29.7	
わからない	11	23	20	6		17	46	
	31.4	27.4	37.7	26.1		35.4	29.7	

15. 協力する歯科医になった場合 対応

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	34	75	48		18	39	
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
断る	5	5	8	9	*	13	14	*
	14.7	6.7	16.7	50.0		33.3	9.9	
貴医院の診療室での歯科診療	28	63	34	6	*	18	119	*
	82.4	84.0	70.8	33.3		46.2	83.8	
在宅訪問歯科診療	11	25	15	1		6	48	*
	32.4	33.3	31.3	5.6		15.4	33.8	
施設訪問歯科診療	18	27	18	1	*	9	57	*
	52.9	36.0	37.5	5.6		23.1	40.1	
在宅訪問歯科健診	19	27	12	0	*	8	52	
	55.9	36.0	25.0	0.0		20.5	36.6	
施設訪問歯科健診	20	31	14	0	*	9	58	*
	58.8	41.3	29.2	0.0		23.1	40.9	
施設職員や介護者等への歯科保健指導	15	29	17	1	*	9	55	
	44.1	38.7	35.4	5.6		23.1	38.7	
その他	2	3	2	0		2	5	
	5.9	4.0	4.2	0.0		5.1	3.5	

16. 協力する歯科医になった場合 情報公開

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	32	72	47		18	36	
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
いいえ	14	31	31	13	*	20	72	
	43.8	43.1	66.0	72.2		55.6	51.4	
はい	18	41	16	5		16	68	
	56.3	56.9	34.0	27.8		44.4	48.6	

17. 意味の大体わかる語句

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	34	86	54		20	46	
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
ノーマリゼーション	11	38	19	7		12	64	
	32.4	44.2	35.2	35.0		26.1	41.3	
セルフアドボカシー	2	6	2	3		4	9	
	5.9	7.0	3.7	15.0		8.7	5.8	
ショートステイ	28	75	50	16		39	134	
	82.4	87.2	92.6	80.0		84.8	86.5	
デイサービス	30	78	51	19		44	139	
	88.2	90.7	94.4	95.0		95.7	89.7	
身体障害者相談員	18	38	30	10		18	84	
	52.9	44.2	55.6	50.0		39.1	54.2	
グループホーム	13	45	28	6		15	79	
	38.2	52.3	51.9	30.0		32.6	51.0	*
バリアフリー	33	78	56	15		40	143	
	97.1	90.7	92.6	75.0		87.0	92.3	
ケアハウス	29	68	48	17		31	133	*
	85.3	79.1	85.2	85.0		67.4	85.8	
ソーシャルワーカー	26	57	43	10		26	118	*
	76.5	66.3	79.6	50.0		56.5	74.8	
社会福祉士	18	47	30	10		20	88	
	52.9	54.7	55.6	50.0		43.5	56.8	
介護福祉士	28	67	48	17		33	129	
	82.4	77.9	83.3	85.0		71.7	83.2	
育成医療	12	50	23	4	*	17	75	
	35.3	58.1	42.6	20.0		37.0	48.4	
福祉ホーム	19	40	25	10		18	80	
	55.9	46.5	46.3	50.0		39.1	51.6	
更正措置施設	5	34	16	6		15	50	
	14.7	39.5	29.6	30.0		32.6	32.3	
ケースワーカー	18	53	38	10		22	102	*
	52.9	61.6	70.4	50.0		47.8	85.9	
社会福祉協議会	14	53	41	18	*	24	105	
	41.2	61.6	75.5	90.0		52.2	67.7	

18. 研究会・調査会等の希望

	年齢4区分				有意差	歯科診療実施		有意差
	40歳未満	40-49歳	50-59歳	60歳以上		いいえ	はい	
	合計	33	75	47		21	43	
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
いいえ	7	25	21	13	*	20	46	
	21.2	33.3	44.7	61.9		46.5	33.1	
はい	26	50	26	8		23	93	
	78.8	66.7	55.3	38.1		53.5	66.9	



【4】心身障害者(児)に対する処置は、基本的にどの程度まで対応していますか。

1. 引き受けていない
2. 相談まで
3. 他の医療機関を紹介する
4. 応急処置まで
5. 主訴の疾患のみを治療する
6. 主訴以外の疾患も治療する
7. 疾患がなくても歯科健診や歯科保健指導(歯磨き指導、食生活指導)で管理する
8. 必要な人には摂食・嚥下訓練をする
9. その他 ( )

【5】他の医療機関で障害者歯科診療に携わったことがありますか。また、それはどこの機関ですか。

1. なし
2. あり ( a 県内 ・ b 県外 )

(あてはまるもの全て) 医療施設・機関名	{	㉞ 高松市歯科救急センター	
		㉟ 香川県身体障害者総合リハビリセンター	
		㊱ 香川医科大学	
		㊲ 岡山大学歯学部 (	科・室)
		㊳ 徳島大学歯学部 (	科・室)
		㊴ 歯科のある病院 (	病院)
		㊵ 歯科医院(開業医)(	歯科医院)
		㊶ その他 (	)

【6】貴医院で対応できないような心身障害者(児)が来院された場合、紹介している歯科医療施設・機関はありますか。差し支えなければお答え下さい。

1. なし
2. あり ( a 県内 ・ b 県外 )

(あてはまるもの全て) 医療施設・機関名	{	㉞ 高松市歯科救急センター	
		㉟ 香川県身体障害者総合リハビリセンター	
		㊱ 香川医科大学	
		㊲ 岡山大学歯学部 (	科・室)
		㊳ 徳島大学歯学部 (	科・室)
		㊴ 歯科のある病院 (	病院)
		㊵ 歯科医院(開業医)(	歯科医院)
		㊶ その他 (	)

【7】貴医院で対応できないような心身障害者(児)が来院された場合、紹介システムについてどう思いますか。

1. 必要ない
2. 必要
3. わからない